

ホクコーカソロン[®]粒剤 2.5

■種類名：DBN粒剤
 ■有効成分：DBN -----2.5%
 ■PRTR法指定物質：DBN [第1種] -----2.5%

■登録番号：第7842号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1966.12.27
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：4年
 ■包装：3kg×8袋

【特長】

- 雑草発生初期(1～4月)に処理可能ないぐさ用除草剤。 日本芝の適用もあり、また、公園などでも使用できる。
- 多年生広葉雑草にも有効。

【適用内容】(2015年4月22日現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	DBNを含む農薬の総使用回数
いぐさ	—	ス ^メ メ ^テ ホ ^ウ ミ ^ズ ハ ^コ ベ 水田一年生雑草 マツバイ	1～4月 (雑草発生始期)	壤土～埴土 (減水深0.5cm/ 日以下)	3～6kg /10a	2回 以内	湛水 散布	2回 以内
しちとうい		水田一年生雑草 マツバイ ミズハコベ	移植後 7～10日	腐植に富む埴土 ～壤土 (減水深0.5cm/ 日以下)	3～4kg /10a			
日本芝		一年生雑草 多年生広葉雑草	秋期雑草 発生前 ～発生始期	壤土～埴土	8～10kg /10a (1㎡当り 8～10g)			
水稻 (刈取 跡)	水稲刈取跡	マツバイ	水稲刈取後 7～10日まで		5～6kg /10a	1回	1回	
樹木等	公園、 庭園、 堤とう、 駐車場、 道路、 運動場、 宅地、 のり面等	一年生雑草	雑草の発生前 ～発生始期	—	17～20kg /10a (1㎡当り 17～20g)	3回 以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に散布	3回 以内
		多年生広葉雑草 スギナ			20～40kg /10a (1㎡当り 20～40g)			

【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 雑草が大きくなると効果が劣るので、発生始めに使用すること。
- 本剤はイ科雑草に対しては効果が劣るので、イ科雑草が優占する場所での使用はさけること。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので、雨上がり等の土が湿った状態で使用することが望ましい。
- 本剤はまきむらによって効果が不均一になったり葉害の部分的発生が懸念されるので、特に均一散布に留意すること。
- 多年生広葉雑草に対しては所定量を雑草の株元及びその周辺に散布すること。
- 本剤は処理後地表面から薬剤が気化し、気象条件などによって滞留した場合、下枝の葉や果実に葉害を生ずるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさけること。
- いぐさ・しちとういに使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ◆ 土壌は埴土～壤土とし、かつ1日の減水深0.5cm以下の漏水の少ない腐植含量の多いところで使用すること。砂壤土や減水深の大きい水田では使用しないこと。
 - ◆ 本剤は湛水状態で散布し、散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
 - ◆ 既発生の雑草には効果が劣るので、所定範囲内の多めの量を使用すること。また、雑草の発生がだらだらとなる場合は、所定範囲内の多めの量を使用するか、概ね1ヶ月以上の間隔をあけて2回散布すること。
- 水稻(刈取跡)に使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ◆ 本剤散布後の圃場は翌春までそのままにしておくのが最も効果的で秋耕はしないこと。
 - ◆ 翌春、水稻以外の作物を栽培する予定のある場合は使用しないこと。

- 次のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 極端な砂質土壌
 - ◆ そ菜(かぼちゃ、うり類など)、花き(菊など)、木づなどの栽培園に隣接している場所及びその栽培予定地
 - ◆ 新植後3年未満又は間作予定の果樹園
 - ◆ ハウス、温室などの施設内及びその周辺並びにそれらの設置予定地
 - ◆ 移植後間もない樹木の周辺
 - ◆ 本剤に影響を受けやすい樹種(マツ類、モクセイ類、ミズキ類、コナラ、ヒノキ、コナラ、イゾノ)等の樹冠下
- 公園・堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ◆ 激しい降雨の予想される場合は使用を避けること。
 - ◆ 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分に注意して散布すること。
 - ◆ 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。
 - ◆ 関係者以外は作業現場に近づかせないこと。小児、通行人、家畜などに留意すること。散布後(最小限その当日)も散布区域に縄囲いや立て札をたて立ち入らせないこと。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。